

校異源氏物語・初音

としたちかへるあしたのそらのけしきなこりなく、もらぬうら、けさにはかすならぬかきねのうちにゆきまの草わかやかにいろつきはしめいつしかとけしきたつかすみのこのめもちけふりおのつから人のこゝろものひらかにそみゆるかしましていと、たまをしける御まへは庭よりはしめみところおほくみかきましたまへる御方／＼の有さま、ねひたてんもことはたるましくなん春のおとゝの御まへとりわきて梅のかもみすのうちのほひにふきまかひていける仏のみくにとおほゆさすかにうちとけてやすらかにすみなし給へりさふらふ人

／＼もわかやかにすぐれたるをひめ君の御かたにとえらせ給てすこしをとなひたるかきりなか／＼よし／＼、しくさうそくありさまよりはしめてめやすくもてつけてこゝかしこにむれあつゝはかためのいはるしてもちるかゝみをさへとりよせてちとせのかけにしろきとしのうちのいはひ事ともしてそほれあへるにおとゝのきみさしのそきたまへればふところてひきなをしつゝ、いとはしたなきわさかなとわひあへりいとしたゝかなる身つからのいはひ事ともかなみなおの

／＼思事のみち／＼あらんかしすこしきかせよや我ことふきせんとうちわらひ給へる御有さまをとしのはしめのさかへにみたてまつるわれはと思あかれる中将の君そかねてそみゆるなとこそかゝみのかけにもかたらひ侍りつれわたくしのいのりはなにはかりのことをかなときこゆあしたの程は人／＼まいりこみてものさはかしかりけるをゆふつかた御方／＼のさむさし給はんとて心ことにひきつくるひけさうしたまふ御かけこそけにみるかひあめれけさの人／＼のたはふれかはしつるいとうらやましくみえつるをうゑには我みせたてまつらんとてみたれたることすこしうちませつゝ、いはひきこえたまふ

うすこほりとけぬるいけのかゝみにはよにたくひなきかけそならへるけに

めてたき御あはひともなり

くもりなきいけのかゝみによろつ世をすむへきかけそしるくみえけるなに

ことにつけてもすゑとをき御契をあらまほしくきこへかはし給今日はねのひなりけりけにちとせの春をかけていはゝんにことはりなる日なりひめきみの御かたにわたり給へればわらはしもつかへなとおまへの山のこまつひきあそふわか

き人／＼の心ちともおきところなくみゆきたのおと、よりわざとかましくしあつめたるひけこともわりこなとたてまつれ給へりえならぬ五えうのえたにうつるうくひすもおもふ心あらんかし

とし月をまつにひかれてふる人にけふうくひすのはつねきかせよをとせぬ

さとのときこへたまへるをけにあはれとおほしゝることいみもえし給はぬけしきなりこの御かへりはみつからきこえたまはつねをしみ給へきかたにもあらすかしとて御すゝりとりまかなひかゝせたてまつらせたまふいとうつくしけにてあけくれみたてまつる人たにあかす思きこゆる御有さまをいまゝておほつかなきとし月のへたゝりけるもつみへかましくこゝろくるしとおほす

ひきわかれとしはふれともうくひすのすたちしまつのねをわすれめやおさ

なき御こゝろにまかせてくた／＼しくそある夏の御すまひをみたまへはときならぬけにやいとしつかにみえてわざとこのまじきこともなくあてやかにすみなし給へるけはひみえわたるとし月にそへて御心のへたてもなくあはれる御中らひなりいまはあなかにちかやかなる御有さまもてなしきこへたまはさりけりいとむつましくありかたからむいもせのちきりはかりきこえかはし給みき帳へたてたれとすこしおしやり給へは又さてをはすはなたはけにゝほひおほからぬあはひにて御くしなどもいたくさかりすきにけりやさしかたにあらねとえひかつらしてそつくるひ給へき我ならさんひとはみさめしぬへき御有さまをかくてみるこそうれしくほいあれこゝろかるき人のつらにて我にそむきたまひなましかはなど御たいめんのをりをりにはまつわか御こゝろのなかさをも人の御こゝろのおもきをもうれしく思やうなりとおほしけりこまやかにふるとしの御ものかたりとなつかしうきこえたまひてにしのたいへわたり給またいたくもすみなれたまはぬ程よりはけはひをかしくしなしてをかしけなるわらはへのすかたなまめかしくひとかけあまたして御しつらひあるへきかきりなれともこまやかなる御てうとはいとしもとゝのへ給はぬをさるかたにものきよけにすみなしたまへりさうしみもあなをかしけとふとみえてやまふきにもてはやし給へる御かたちなどいとはなやかにこゝそくもれるとみゆるところなくゝまなくにほひきらきらしくみまほしきさまそし給へる物おもひにしつみ給へるほどのしわさにやかみのすそすこしほそりてさはらかにかゝれるしもいものきよけにこゝかしこいとけさやかなるさまし給へるをかくてみさらましかはとおもほすにつけてはえしもみすくし給ましくやかていとへたてなくみたてまつり給へとをを思にへたゝりおほくあやしきかうつゝのこゝちもし給はねはまほならず

もてなし給へるもいとをかしとしころになりぬる心ちしてみたてまつるも心やすくほいかなひぬるをつゝみなくもてなし給てあなたなどにもわたり給へかしはけなきうひことならふ人もあめるをもろともにきゝならし給へうしろめたくあはつけきこゝろもたる人なきところなりときこえたまへはのたまはせんまゝにこそはときこえたまふさもあることそかしくれかたになるほどにあかしの御かたにわたり給ちかきわたとのゝとおしあくるよりみすのうちのおひかせなまめかしくふきにははかしてものよりことにけたかくおほさるさうしみはみえすいつらとみまはし給にすゝりのあたりにきはゝしくさうしもとちらしいるをとりつゝみたまふからのきのことゝしきはしさしたるしとねにをかしけるきむうちをきわざとめきよしある火をけにしゝうをくゆらかしてものことにしめたるにえひかうのかのまかへるいといえんなりてならひどものみたれうちとけたるもすちかはりゆへあるかきさまなりことゝしうさうかちなにもさへかかすめやすくかきすましたりこまつの御返をめつらしとみけるまゝにあはれなるふる事ともかきませて

めつらしやはなのねくらにこつたひてたにのふるすをとつるうくひすこゑ

まちいてたるなどもありさけるおかへにいゑしあれはなとひきかへしなくさめたるすちなとかきませつゝあるをとりてみ給つゝほゝゑみ給へるはつかしけなりふてさしぬらしてかきすさみたまふほどにあさりいてゝさすかに身つからのもてなしはかしこまりをきてめやすきよういなるを猶人よりはことなりとおほすしるぎにけさやかなるかみのかゝりのすこしさはらかなるほどにうすらきにけるもいとゝなまめかしさそひてなつかしければあたらしきとしの御さはかれもやとつゝましけれとこなたにとまり給ぬなをおほえことなりかしくかたゝにこゝろをきておほすみなみのおとゝにはましてめさましかる人ゝありまたあけほのゝほとにわたり給ぬかくしもあるましき夜ふかさそかしと思になこりもたゝならすあはれに思まちとり給へるはたなまけやけしとおほすへかめる心のうちはゝかられ給てあやしきうたゝねをしてわかゝしかりけるいきたなさをさしもおとろかしたまはてと御けしきとり給もをかしくみゆことなる御いらへもなければわつらはしくてそらねをしつゝひたかくおほとこのもりおきたり今日は臨時客の事にまきはしてそおもかくし給かむたちめみこたちなどれいのゝこるなくまいり給へり御あそひありてひきいてものろくなどになしそこらつとひ給へるか我もおとらしともてなし給へる中にもすこしなすらひなるたにみえ給はぬ物かなとりはなちてはいさくおほくものし給ころなれとおまへに

てはけをされたまふわろしかしなにかすならぬしもへとまとたにこの院に
まいるには心つかひことなりけりましてわかやかなるかむたちめなどはおもふ
こゝろなと物し給てすゝろにこゝろけさうし給つゝつねのとしよりもことなり
花のかさそふゆふかせのとかにうちふきたるにおまへのむめやう／＼ひもとき
てあはれるたそかれときなるに物のしらへともおもしろくこのとうたひた
るひやうしいとはなやかなりおとゝもときこゑうちそへたまへるさきくさ
のすゑつかたいとなつかしうめてたくきこゆなに事もさしいてし給御ひかりに
はやされていろをもねをますけちめことになんわかれけるかくのゝしるむま
くるまのをとも物へたてゝきゝたまふ御方／＼はゝちすの中のせかいにまたひ
らけさらむ心ちもかくやと心やましけなりましてひんかしの院にはなれたまへ
る御方／＼はとし月にそへてつれ／＼のかすのみまされとよのうきめみえぬ山
ちに思なすらへてつれなき人の御こゝろをはなにとかはみたてまつりとかめん
そのほかの心もとなくさひしき事はたなければおこなひのかたの人はそのまき
れなくつとめかなのよろつのさうしのかくもん心にいれたまはん人は又そのね
かひにしたかひものまめやかにはか／＼しきをきてにもたゝ心のねかひにした
かひたるすまゐなりさはかしきひころすくしてわたり給へりひたちの宮の御方
には人の程あれは心くるしくおほして人めのかさはかりはいとよくもてなし
きこへたまふいにしへさかりとみえし御わかゝみもとしころにおとろへゆきま
してたきのよとみはつかしけなる御かたわらめなどをいとをしとおほせはまほ
にもむかひたまはすやなきはけにこそすさまじかりけれとみゆるもきなし給へ
る人からなるへしひかりもなくゝろきかいねりのさひ／＼しくはりたるひとか
さねざるをりものうちきおき給へるさむけに心くるしかゝさねのうちきなど
はいかにしなしたるにかあらん御はなのいろはかりかすみにもまきるましくは
なやかなるに御心にもあらすうちなけれ給てことさらにみき丁ひきつくろひ
へたて給中／＼女はさしもおほしたらすいまはかくあはれになかき御こゝろの
程ををたしきものにうちとけたのみきこえ給へる御さまあはれなりかゝるかた
にもをしなへての人ならすいとをしかなしき人の御さまとおほせはあはれに
我たにこそはと御こゝろとゝめ給へるもありかたきそかし御こゑもいとさむけ
にうちわなゝきつゝかたらひきこえ給みわつらひ給て御そのなとうしろみき
こゆる人は侍りやかく心やすき御すまゐはたゝいとうちとけたるさまにふくみ
なへたるこそよけれうわへはかりつくろひたる御よそひはあいなくなときこへ
給へはこち／＼しくさすかにわらひ給てたいこのあさりのきみの御あつかひし

侍るとときぬとも、えぬ侍らてなんかきぬをさへとられにしのちきむく侍
ときこえ給はいとはなあかき御せうとなりけり心うつくしといひなからあまり
うちとけすきたりとおほせとこ、にてはいとまめにきすくの人にてをはすかは
きぬはいとよし山ふしのみのしろ衣にゆつり給てあへなんさてこのいたはりな
きしろたへのころもはな、へにもなとか、さねたまはぬさるへきをりくはう
ちわすれたらん事もおとろかし給へかしもとよりをれくしくたゆき心のおこ
たりにましてかた／＼のまきはしき、ほいにもおのつからなんとたたまひて
むかひの院のみくらあけさせてきぬあやなとたてまつらせ給あれたるところも
なければすみ給はぬ所のけはひはしつかにておまへのこたちはかりそいとをも
しろくこうはいのさきいてたるにほひなとみはやす人もなきをみわたし給て
ふるさとの春のこすゑにたつねきてよのつねならぬはなをみるかなひとり
こち給へとき、しり給はさりけんかしうつせみのあま君にもさしのそき給
へりうけはりたるさまにもあらすかこやかにつほねすみにしなして仏はかりに
ところえさせたてまつりておこなひつとめけるさまあはれにみえて経仏のかさ
りはかなくしたるあかのくなともをかしけになまめかしく猶こゝろはせありと
みゆるひとのけはひなりあをにひの木丁心はへをかしきにいたくるかくれて袖
くちはかりそいることなるしもなつかしければなみたくみたまひて松かうらし
まをはるかに思てそやみぬへかりけるむかしよりこゝろうかりける御契かなさ
すかにかはかりのむつひはたゆましかりけるよなどのたまふあまきみも物あは
れなるけはひにてかゝるかたにたのみきこえさするしもなんあさくはあらず思
給へしられ侍りけるときこゆつらきおりくかさねて心まとはしたまひしよの
むくひなどを仏にかしこまりきこゆるこそくるしけれおほしゝるやかくいとす
なをにしもあらぬものをと思あはせたまふこともあらしやはとなんおもふとの
たまふかのあさましかりしよのふる事をき、おき給へるなんめりとはつかしく
かゝる有さまを御覧しはてらるゝよりほかのむくひはいつこにか侍らんとてま
ことにうちなきぬいにしへよりも、のふかくはつかしけさまさりてかくもては
なれたる事とおほすしもみはなちかたくおほさるれとはかなきことをのたまひ
かくへくもあらすおほかたのむかしいまの物かたりをし給てかはかりのいふか
ひたにあれかしとあなたをみやり給かやうにても御かけにかくれたる人くお
ほかりみなさしのそきわたし給ておほつかなき日かすつもるをりくあれと心
のうちはおこたらずなんだゝかきりある道のわかれのみこそうしろめたけれ
いのちそしらぬなとなつかしの給いつれをもほと／＼につけてあはれとおほし

たり我はおほしあかりぬへき御身の程なれとさしもことくしくもてなし給はす所につけ人のほにつけつゝあまねくなつかしくおはしませはたゝかはかりの御こゝろにかゝりてなんおほくの人くゝとしをへけることしはおとこたうか有内より朱雀院にまいりてつきにこの院へまいる道のほとゝをくて夜あけかたになりにけり月もくもりなくすみまさりてうす雪すこしふれるにはのえならぬに殿上人など物ゝ上手おほかるころほひにてふゑのねもいとをもしろくふきたてゝこの御前へはことにこゝろつかひしたり御方くゝも物みにわたりたまふへくかねて御せうそくとも有ければ左右のたいわたのなどに御つほねしつゝをはすにしのたいのひめ君はしむてんのみなみの御方にわたり給てこなたのひめ君御たいめんありけりうゑもひとゝころにおはしませはみ木丁はかりへたてゝきこえ給朱雀院のきさいの宮の御かたなどめくりける程に夜もやうくあけゆけはみつむまやにてことそかせ給へきをれいあることよりもさまことに事くはへていみしくもてはやさせ給かけすさまじきあか月つき夜にゆきはやうくふりつむまつかせこたかくふきおろしものすさましくも有ぬへきほとにあを色のなへはめるにしらかさねのいろあひなにかさりかはみゆるかさしのわたしはにほひもなきものなれとゝころからにやおもしろく心ゆきいのちのふるほとなり殿の中将のきみ内の大いとのゝきみたちそこらにすくてめやすくはなやかなりほのくゝとあけ行にゆきやゝちりてそゝろさむきにたけかはうたひてかよれるすかたなつかしきこゑくゝのゑにもかきとゝめかたからんこそくちをしけれ御方くゝいづれもくゝおとらぬ袖くちともこほれいてたるこちたさものゝいろあひなともあけほのゝそらに春のにしきたちいてたるかすみのうちかどみわたさるあやしく心ゆくものにそありけるさるはかうこんしのよはなれたるさまことふきのみたりかはしきをこめきたる事もことくしくとりなしたる中くゝなにはかりのおもしろかるへきひやうしもきこへぬものをれいのわたかつきわたりてまかてぬ夜あけはてぬれば御かたくゝかへりわたり給ぬおとゝのきみすこしおほとのもりて日たかくおき給へり中將のこゑは弁少將ののをさくゝおとらさむめるはあやしくいうそくともおひいつるころほひにこそあれいにしへの人はまことにかしこきかたやすくれたることもおほかりけんなさけたちたるすちはこのころの人にえしもまさらさりけんかし中將などをはすくゝしきおほやけひとにしなしてんとなむ思おきてしみつからのあされはみたるかたくなしさをもてはなれよと思しかと猶したにはほのすきたるすちの心をこそとゝむへかめれもてしつめすくよかなるうわへはかりはうるさかんめりなとい

とうつくしとおほしたり万春樂御くちすさみにのたまひて人ぐのこなたにつ
とひ給へるついてにかてもゝねこゝろみてしかなわたくしのこえんすへし
とのたまひて御ごとゝものうるはしきふくろともしてひめをかせ給へるみなひ
きいてゝおしのこひてゆるへるをとゝのへさせ給なとす御方ぐ心つかひいた
くしつゝ心けさうをつくし給らんかし